

松戸市協働のまちづくり協議会 第6回 議事概要

《日 時》令和6年11月4日（月祝）10時00分～14時15分

《場 所》松戸市勤労会館 3階ホール

《委 員》犬塚 裕雅 会長、牧野 昌子 副会長、小川 早苗 委員、

羽村 太雅 委員、星野 健一 委員、田中 勝規 委員

（欠席）大成 哲雄 委員、坂野 喜隆 委員、山口 恵理子 委員

《傍聴者》8名

1 委員参集

※委員定数確認、配布資料確認、傍聴許可確認

- ・協働事業提案制度/市民活動助成制度の申請事業に対する利害関係の有無を確認した。

2 開会

3 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

4 協働のまちづくり協議会 委員紹介

5 令和7年度実施分協働事業・市民活動助成事業プレゼンテーション

【協働事業】

（1）

事業名 : みんなで育て みんなでつくる 沿道の食べられる景観事業

団体名 : エディブルウェイプロジェクトチーム

担当課 : みどりと花の課

委 員 : 活動がだんだん定着してきていると感じる。スタッフの人数などは現在どのような状況か。

団 体 : 千葉大学園芸学部の研究室のプロジェクトとして立ち上げたので、最初のメンバーの中心は学生で、地域の方に手伝っていただきながらやっていた。令和2年度から市民活動助成が始まり、メンバーの中に地域の方が入り、今もこのメンバーだけでなく、ベランダで苗を育ててくださるボランティアや地域の方々が中心となって活動をしているという状況。

委 員 : 長年皆さんの力によって続いている。特に松戸駅の東地区は根づいているという感じがする。尚且つ小規模保育園や包括支援センターなど人の出入りによって植物の管理をしやすい場所を選んでいると思う。令和7年度の計画にある、安定した仕組みづくりが必要という部分と、プランターを広める計画があれば教えてほしい。

団 体 : 安定した仕組み作りは団体だけではなく、保育所や、今年度は市が地域包

括支援センターに繋いでくれていろんな方が参加してくださるようになった。私たちの中だけで仕組みを作っていくというのはなかなか限界がある。いろんな主体の方が関わってくださることで、毎月 15 名ほどはお世話会に参加してくれている。また、沿道の住民が「水やっといたよ」と言ってくれ、水やりを手伝ってくれる。今までは参加できなかったような方たちが参加してくださっている。具体的な仕組みづくりについては今まさに整え中。多様な方々が関わってくれるところを上手く繋げていければいいと思う。

担 当 課：2 点目の質問の新たな地域への展開は、今回の協働事業とは別に市から団体へ委託し、来年度、再来年度から実施を予定している。将来的には現在やっている市との協働事業と来年度以降新たに展開する地域での事業をモデル事業としてそれらを基に最終的にはマニュアル化して市の全域に広めやすいような仕組みを整えていく事を検討している。

委 員：現在協力してもらっている人は何人ぐらいか。

団 体：必ず来てくれる方は 10 人ぐらい。プランターを置いている世帯は 50 世帯ぐらい。更に、水をあげてくれる方がおり、把握はできていないが、各プランターに札が貼ってあって、何日に誰が何リットル水をあげたと分かる。

委 員：まちのプランターの収穫物の所有権は市にあるのか。

担 当 課：所有権は市ではなく参加者の方にある。ご自宅で料理する等活用いただいている。

委 員：まちのプランターのルールを聞きたい。

団 体：基本的には月 1 回のお手入れ会や日々の水やりに 1 回でも参加する等、何か手入れをした方は収穫してもいいということにしている。

(2)

事業名：まつど de SDGs の輪を広げようプロジェクト事業

団体名：まつど地域活躍塾つながりの会

担当課：政策推進課 SDGs 推進担当室

委 員：事例集をウェブサイト、イベントで周知と書いてある。ウェブサイトは市や団体のホームページなのか。また、イベントではどんな方法で周知していくのか教えてほしい。

団 体：無料で PR が可能なウェブサイトへ掲載することを検討している。イベントでは事例集の QR コードを配布する周知方法を考えている。

委 員：来年度、消費生活展を市役所の通路で行うことになれば、多くの人の目に留まることになると思うが、目標人数が少なすぎるのではないかと思います。

た。パネルを地域学習会で利用するとあるが毎年同じ内容のパネルと理解していいのか。

団体：消費生活展の人数は、しっかりと足を止めて5～10分と見る人、説明をして認知してくださった人数で出している。当日はもっと人数を増やせるようにしていきたい。パネルは毎年違うものを展示している。もし出展が決まれば違うテーマでSDGsと繋げてパネルを作成したいと考えている。

委員：アクションプランコンテストに参加された方々の結果がなかなか広く認知されていないのは非常に残念だと思っている。予算計画だとウェブの予算が来年度からなくなっている。無料のウェブサイトを利用することで削減されているのか。そのPRを来年度も実施していくという認識でいいのか。

団体：PRについて、今年度はウェブの予算を取る形で計上していった。私たちも自立してやっていかなければいけないので、無料のウェブサイト等を活用していこうと考えている。アクションプランコンテストはその後の見える化ということで助言をいただいたが、今後の勉強会に登壇してもらい、コンテストで優勝された方だと周知して更なる発展を望みたい。

委員：パネルは毎年新しい物を作っていくということだが、その経費が予算に計上されていない。何枚ぐらい毎年新しく更新されるのか。

団体：基本は2枚である。経費は市の予算から出してもらえる。パネルは最終的には団体の方へ渡る。2019年からずっと持って蓄積しているものがある。こういったものも地域学習会などの教材としてもっと活用できると思っている。

委員：効果をさらに高めていくとあるが、担当課として何か計画があるか。

担当課：SDGs推進担当室としては、市民の方へのSDGsの浸透度を気にしている。10月の松戸まつりの時に子ども向けのブースを出展し、親御さんへのアンケートとして「松戸市がSDGsの未来都市になったのを知っているか？」と聞いたとき、ほとんどが知らないと回答しており、まだまだ浸透が足りないという認識がある。そのため、多くの市民団体と繋がりがある当団体と協働することで数多くの市民、団体の方に市がSDGsに取り組んでいることを知っていただく機会になると思っている。

委員：メンバーは何人ぐらいか。

団体：直接関わっているのは6人である。会員で当日学習会をやった時にお手伝いできるのが5～6人、多いときは10人ぐらいいる。

【市民活動助成事業】

(3)

事業名 : 子育て中の方が手芸を楽しむ事業

団体名 : Handicraft circle bijou ハンディクラフトサークルビジュ

委員 : 手仕事で夢中になる時間が大事だと分かった。今年の第1回、2回にはどのような方々が参加されたのか。

団体 : PTAの保護者の方が参加している。実家に住んでいるシングルマザーが他の友人との交流が希薄であることから参加し「なくなってしまっは困る。私の生き甲斐」と言われた。小さな子どもがいて、一緒に参加したくてもできない等たくさん声をいただいている。できれば保育士に預けて活動に來たいが來られないという状況が続いている。

委員 : 事業予算が127,600円だが、今後も同じような金額が続くのか。保育士をつけると明市民センターでは2部屋借りないといけない。とても競争率の高い市民センターなのでどこかの援助が受けられる等あれば聞かせてほしい。

団体 : 今年度は、団体の活動が始まったばかりでほぼ予算がない状態。来年度この助成金をいただけることになると、材料や工具を買えるので、またちょっと変わってくると思う。その分保育士を委託する金額に回せたらと考えている。この助成金をいただくと、予約が始まる前から枠を取ることが可能なので、大丈夫ではないかと考えている。

委員 : 事業の予算概要の中で、一時保育の割合が非常に高いと思う。保育士の確保はどのようにするのか。

団体 : 他団体何ヶ所かに声を掛けて、了承いただいた団体があるので、そこは大丈夫と考えている。

委員 : PTAの手芸サークルから発足したということだが、団体発足の動機を教えてください。

団体 : PTAが今年度から任意性となり、存続が難しい状態になっている。手芸のサークルに予算も出せるかどうか分からないというような事になった。これでは続けられないということで、終わりにしようとしたところ、参加メンバーから存続を希望する声上がり、学校でやること自体規制も多かったなので、外に出て任意団体としてやろうかということになった。

(4)

事業名 : 矢切地区における子どもの遊び場創設事業

団体名 : あそびパーク やきりの

委員 : 今年度の11月に矢切小学校で映画の上映会をするとのことだが、上映する

映画は「ゆめパの時間」なのか。プレーパークの時にプレーリーダーがいた方がいいと思うが、そのあたりはどうなっているか。坂下ほんでん子どもの遊び場は公立の遊び場なのか。そこで畑ができるのか。

団 体：11月に上映するのは大阪にある大空小学校の映画であり別のものである。現状プレーリーダーは団体のメンバーにはいないため、我々も欲しいと思っている。プレーリーダーではないが、協力いただいている方でプレーリーダーのような研修をやっている方がおり、その方に入ってくださいというのが一つ。来年度、私ともう一人で研修に行く予定。年度内はスポットで協力していただける方にゲストで遊びに来ていただくことを考えている。坂下ほんでん子どもの遊び場は公園とはまた違う位置づけで、市が地権者から借りている。公園の無い地域に補足的にあるもので、畑が広場内にある。借りる予定で申請しているが、万が一借りられなかったときのこととも考えて進めている。

委 員：20人程の子どもたちの見守りを5人の構成員だけでできるのか不安がある。支援体制、応援があるのか。予算に参加者の保険が入っていないので、検討した方が良いのではないかな。

団 体：見守りについて、先ほどのプレーリーダーというところにも繋がると思うが、我々にとっても要検討の要素になっている。イベントの保険料も検討事項。

委 員：遊びの中で木工あそびと書いてあるが、何かしつらえがあるのか。何か物を用意してそこに持ち込む事はできるのか。

団 体：平らなところがなく、独楽をやらうとすると引っかかる。独楽は専用のシートがあるので、それを敷いてする。物はいただいた助成金で購入し持っていく。

委 員：物品を管理する場所は意外と負担になったりするので、早めに検討しておくといいと思う。

委 員：畑の先生は地権者の方がするのか、外部講師がするのか。

団 体：外部講師である。

(5)

事業名：みんなで創る未来の都市農業 コミュニティ農園事業

団体名：まつど市民の会

委 員：自然農法の講座について、講師はどのように考えているか。

団 体：講師は自団体がやることも可能であり、国でやっているアドバイザー派遣事業に頼むことも可能。自然農法の研究をやっている団体がありそこにもオファーしている。確実ではないが可能性は高いと思っている。

委員：団体構成員の方は農業経験者や農業従事者なのか。対象参加者は候補地の近隣に住む多世代の市民になる。そうすると、構成員の方々にお任せして、地域の人に参加していただく、同じようなことを同時に3地区でやるという理解でいいか。今年度の計画について、どのようなものがあるか。昨年度を踏まえたものがあると思うが、それは土づくりということによろしいか。

団体：同時にやるのかということだが、それぞれ担当がいる。紙敷は実際に自然農法をやっている農家と繋がりがある。主水新田、旭町、七右衛門は比較的近い範囲なのでばらばらでなくどこか一か所でもできるかなという印象。昨年度は団体の告知をしたが、なかなか広がらないので、今回使ったツールはこれまでやってきた事業になる。いろんな方に参加していただきたいので、参加者のうち、高齢の方はただ見ていただき、若い方、子どもたちは土に触れていただくということだけでもいいと思う。いろんな方が参加できると思っている。

委員：コミュニティ農園は、将来的にどのぐらいの広さを考えているか。

団体：通常一反。田んぼ一枚が畑になっていることがほとんどなので一反という規模で考えるとできるかと思っている。最終的には市の農業がなくならないように市民みんなでやりましょうという事業を目指している。

(6)

事業名：手作りおもちゃカフェ事業

団体名：子育て+プラスゆとりにつこり

委員：今回提案されている内容と、今までの内容と一番大きな違いはどのところか。

団体：これまでは財源づくりをしていたが、実際にはもっと、子どもに自立・独創性を持ってもらうことや、家族の触れ合いを経験してもらいたい。これまでのものを土台にしながら、会員のネットワークを使い、いろいろな方の考えを採用し、よりわくわくするもの、確実にできるもの、更に、材料・テーマだけから自分で発想していけるような状態まで持っていければいいと思っている。

委員：おもちゃカフェというのは、その場で子どもたちがテーマとして定められたものを実際に作るイベントなのか。

団体：一応テーマを作って、そのための材料を準備して、小学校中高学年を中心とした子どもたちがわくわくして作っていけるようなものにしたい。

委員：事業の目標の子どもの参加者数について、子ども関係団体への出張もあると言っていたがそれも含めて8人か。

- 団体：平均的な人数で8人としている。大人数だとこちらも対応しきれないし、安全性も確保できないということもあり、ゆっくり丁寧に子どものつぶやき等も聴きながら裁縫や工作をしていきたいと思い8人としている。
- 委員：高齢者講師を自分たちのネットワークだけではなく広く募るという話だが、どういった基準で採用するのか。
- 団体：市内の団体で現在工作や手芸等活動されている実績のある方をお招きして、アドバイスいただきながら一緒にできればと思っている。今のところ出張しておもちゃカフェを展開してみたところいろんな団体があることも分かり、協力いただけないかというところまでは話し、手ごたえとしては協力的という印象はある。
- 委員：新松戸の市民活動支援コーナーでやっているが、ターゲットは新松戸地域のお子さんなのか。出張もやるということで、市内全域の中でターゲットを拾っていくのか。
- 団体：できれば広くということで考えている。広報まつどやチラシ配架等で募っていききたい。新松戸でやるのは定例のものなので、あとは出張で6回ほどやる。そちらは広くやっていきたいと思っている。
- 委員：提案書を読んで最初にスーパー紙トンボを思い出した。話を聞いたところでは屋内の中でおもちゃ関係が多いという印象。スーパー紙トンボのように、野外で楽しむおもちゃは視野に入っているのか。
- 団体：この間新松戸のフリーマーケットの子どもコーナーに出張した。エコトンボを飛ばしている団体もいた。子供たちが生き生きと活動していた。その子供たちの姿を見て是非他団体にも協働してくれないかとリクエストしたところである。外で遊べるようなものも含めて段ボールを使いながら玉転がしやそれ以外にも遊ぶためのものを一緒に作っていければと思う。室内だけでなく屋外も対象になる。
- 委員：市内にも、屋外で子供たちを遊ばせる団体があるので、そういうところとの連携もあると更に活動の良さが広がると思う。
- 団体：我々も限られた屋内でやるというより、子どもは外遊びを楽しむので他団体とコラボしていければと思っている。

(7)

事業名：松戸の歴史的文化遺産の復元・活用研究事業

団体名：松戸の地理・歴史探訪調査会

- 委員：どういうきっかけで子と清水、鮮魚街道のことを取り上げられたのか。研究を重ねたものを市民にきちんと情報提供していくことが、公益的な活動に繋がると思う。情報提供のことをどのように考えているか。

- 団体：自分の身近にある文化財の子和清水、鮮魚街道のことが意外と分かっていない。私は仕事の都合でなかなか研究ができなかったが、退職して分からないことを調べてみようということで立ち上げた。今後は時々発表会を開く、現場に行って調べたことを市民に知らせる、将来的には近隣の小中学校の先生に教えて一緒に活動してもらおうということを考えている。
- 委員：学術的な保証をどのように考えているか。これがあるかないかによってその後の価値が変わってくる。その辺はどのように見ているか。
- 団体：学会での発表は個人の権利等あると思う。これについても研究をするというスタンスで市にいろんな情報を伝えて、文化財保存活用地域計画に活かしていただければ、それが一番ありがたい。
- 委員：万が一誤った理解、解釈で結論が広がった後、回復するのは難しい。せっかく市民のために松戸の持っている価値を多くの人たちに知ってもらおうという考えでやっている。品質保証をどうするのか気になった。
- 団体：研究して発表しても査読する人が分からないという部分も出て来るのではないかと思う。最終的には市と協力して調査研究して「これは出せるのでは」というところを精査しながらやっていきたい。郷土の歴史を勉強しており、昨年金ケ作の方々と「わがふるさと金ケ作陣屋と村の物語」という本を作った。陣屋の前には鮮魚街道が通っている。昔の家が分からないということで、金ケ作の方々相談したところ、研究しているということで、一緒にやることになった。古地図、開発時の地図、資料等を総合的に調べた。
- 委員：市の博物館との連携があるともう少し研究として仕上げやすいのではないか。
- 団体：市の博物館とコンタクトは取っている。これからも一緒に我々の知っている部分と市が知っている部分を合わせて新たな展開に進んでいければいいと思う。そこに係る標柱の問題も絡めて相談しながらやっていきたいと思う。
- 委員：結果・成果をもう一度どういう形で市民と共有しながら地域の財産として広めていくのか教えてほしい。
- 団体：発表会、巡検、小中学校の先生にも伝えていくことは、やっていきたいと考えている。その後、市の考えと私たちの考えを一緒にするような形でやっていこうかと考えている。

(8)

事業名 : 四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業

団体名 : 小金原みんなでわくわくする会

委員 : 災害に強い居住環境を実現するために具体的にどういう事業を展開しようとしているのか。

団体 : 大きな意味で災害に強いということ、コミュニケーションや、どういう方が住んでいて災害の時にはどういう手助けがいるのか、こういうことはやっておいたほうがいい等を中心に考えている。居住環境という大きなくくりで進めていきたいと考えている。

委員 : 隣同士の顔が見える、輪が広がるという視点で、人の見守りも含めてということか。

団体 : そうである。サロン会というものを計画している。月1回特に高齢者の方を中心に、まず顔見知りになるということからスタートする。これを計画しながらテーマ別の講座を考えている。

委員 : テーマとしては若い世代を巻き込むことが多いが、事業を始めて若い世代の参加はどうか。交流のイベント等には若い世代もいると思うが、主になって動いている人たちの中で若い世代の巻き込みというのは。

団体 : 難しい部分もあるが、少しずつ広げていく。四世代の交流という話の中で、令和7年度はただ来てもらうだけでなく、小学校の吹奏楽部等を招いて発表してもらうことや、絵画や書き物等を壁に設置しみんなに見てもらうことを考えている。

委員 : 若い人が積極的に参加をする場を作るというのは高齢者が準備をしたところに来てもらうよりも、最初の企画の段階からいろんな声を取り入れていくということが一番大事だと思っている。

委員 : エンディングノート勉強会は町会の方が講師をやるのか。

団体 : たまたま私たちの住んでいる地域の方で専門的にやっている方がいる。そういう方にやっていただくのと、今期は成年後見制度について市の専門の方にお話し講演していただきたいと考えている。

委員 : コンポストは今年度作っているのか。

団体 : 今年度やる予定である。認可その他準備が予想よりかかってしまったが、市から認可いただいたのでこれから設置を進める。

委員 : そうすると、来年度もう一つそこに追加するということか。

団体 : そうではなく、とりあえず囲いは2mか4mぐらいで囲うが、落ち葉の量がどのくらいになるか想定できていない。当面は60cmぐらいで落ち葉を入れる。ただ、たい肥としてはごくわずかになる。その辺の兼ね合いでもう一段積み重ねるとかそういったことを考えている。

委員：コンポストは管理運営がなかなか難しい。上手くやらないと腐敗してしまったり、熱をもって火が出たりする。そういったあたりの安全管理、あるいは品質管理の心得のある方はいるのか。

団体：いる。

委員：今年は試験運用しながら来年に備えていくという位置づけで理解してよろしいか。

団体：その準備はできている。たい肥になるまで時間がかかる。もう今年の落ち葉を集めないと難しい。来年の今頃まで待ってられない。既に今度の休みの時にみんなで集めようというところまで来ている。

(9)

事業名：幸谷関さんの森昔のくらし館設置及び冊子発行事業

団体名：関さんの森エコミュージアム

委員：質問が2つある。昔のくらし館の管理運営のための体制と財源の確保は現時点でどのようになっているか。エコミュージアムという名前を付けているので、理念をどういう形で今後反映させていくのか。

団体：この近くにかつて森、屋敷があり、それを所有者が市民に活用してもらうために寄附した。現在環境財団を作っていて、その財団がこれからいろいろしていこうと準備している。エコミュージアムを現在やっているので、管理運営の体制についてはしばらくの間は大丈夫だろうと思っている。問題は資金面であり、今まで県の建築士会、地元の建築士の方からボランティアで活動いただいて、ある程度基礎はできているが、財団自身はまだ大きなお金を集める力がない。従って、小さなくらし館は、なるべくお金をかけないように運営していく。財源がこれからの大きな課題になっていくと思う。エコミュージアムと名前を付けたのはここに森を含めて体験型の博物館を作ろうと考えているからである。単なる博物館ではなく、学芸員がいない代わりにそこにいる会員が自ら皆さんをご案内するシステムを考えている。今回のくらし館の中でも知識を持った者が運営に当たっていきたいと考えている。

委員：古文書等の調査をされているということなので、古文書自体のデジタル化、写真に撮って残しておく等データの保存には取り組んでいるのか。

団体：古文書についてはやっと10数年かけて目録を作った。中身については発表するものはみんなで読み解いてデータに入れているが、せいぜい全体の1割か2割ぐらい。それについては袋に入れ、一つ一つ番号を付け、表だけは写真で撮って、現在、関家の蔵の中に保存してある。その中から選び出して調査していく。いずれも一つの印刷物にまとめなければならないと思

っている。月1回10名ほどが集まってやっているのではなかなか時間がかかる。長く続けることを前提に調査を進めている。

委員：データ化して保存するところに注力している団体もいるのでそういう方たちと連携できると良い。

委員：行政との連携はどのように考えているか。

団体：前にこの場所は道路の計画があり、道路ができていればあの場所はなくなっているはずだった。何とか工事が始まる前にということで古文書の調査に取り掛かったのが現状。ただ、あの森は都市緑地法に基づく特別重要地区に指定されていて開発が規制され、今後に残ることになっている。今回初めて市の助成に申請しこの事業をやることになった。ほとんどがボランティア。今回特に冊子の発行だけはぜひお願いしたい。自分たちも努力し行政の力を借りてアピールしながら市民の皆さんに親しんでもらう昔のくらし館を作りたい。

(10)

事業名：葡萄の家ふれあいコンサート・イベント事業

団体名：特定非営利活動法人 葡萄の家

委員：障がいに対する理解についてのアンケートとあったが、これまでの活動を通じてどのようなときにそのアンケートの結果が変化してきたか。

団体：初めのうちは障がいがあることに気が付かなかったとあったが、やはり年を重ねてやるにつれて、気付きと共に一緒に過ごすことが大切だという声をいただいた。

委員：イベントに参加される方々のリピーターの割合はどのぐらいか。

団体：3割ぐらいである。

委員：コンサートやおもしろ実習教室は障がいのあるなしに関係なく場を作るということと障がいについての理解を広めるということが書かれているが、15周年の記念演奏会のチラシを見ても団体がどんな目的を持ってこのグループホームを運営しているか、障がいについての理解をもっとこのようにしないといけないなどのメッセージがどこにもない。イベントが障がい者への理解を育んでいくというところにはもうちょっと踏み込んだ工夫が必要なのではないか。

団体：このチラシに関してはいろいろな人に配るということで演奏会の人にお任せした。それとは別にコンサートでは団体の紹介や、会員募集の資料を渡した。演奏家の方に最後に一言お話いただくよう依頼し「皆さんご存じだと思いますが『葡萄の家』さんからいつもクリスマスカードが届きます。そこには障がい者の方たちが作った折り紙がいつも入っています。私

はそれを毎年楽しみにしています。ここの会場に来た方も皆さんいただいていますよね」と言っていた。

委員：おもしろ実習教室の開催場所を移したということだが、事前予約制なのか、当日来た人も入れるのか。その辺の整理はできているのか。

団体：少なめに予約を取り、当日チラシなどを買い物に来た人にも配って参加していただきたいと思っている。

委員：今年度の事業目標ではアンケートの評価で「満足した」を70%以上もらうとしていたが、実際はどうだったのか。それを踏まえた来年度の事業目標、やり方を考えていると思うが、どうか。

団体：「満足した」を70%以上得られている。今年の8月にまつど市民活動サポートセンターの多目的ホールでおもしろ実習教室を行った。今までも市の公共の場所でやっていたが、どうしても予約して来ていただいた方だけしかできず、限られた人にしか障がいは難しいことじゃないと分かってもらえなかった。広いところで実施し、当日参加の人たちが来て「これは面白そうだな」と思ってもらいたいと考え、このような事業にした。

委員：集客が見込めそうな場所に変えたこと、アンケートは一応今年の目標は達成したことに満足したというところは良いが、そもそも狙いは障がいの理解、特別じゃないというところの心理的な距離を縮めていく。これについてはどう見るか。

団体：発達障がいのお子さんを連れてきている家族の方から「こんなに大人しくすることはなかった」というアンケートはいただいている。理解を深めるというより同じ空間で同じ時間を共有してもらい、障がいのある人と普通に暮らして欲しいというのがある。いかにも「理解してください。障がい者です」というようなことはあまりしていない。

質疑以上

6 閉会